

# 道理のない高校つぶしはストップを!

平野高校 かわち野高校 美原高校

## の募集停止案は撤回してください



大阪府教育委員会は「入学を志願する者が定員に満たない」ことを理由に、平野高校、かわち野高校、美原高校の3つの府立高校を2024年度から募集停止すると発表しました。「様々な意見を聞いて11月に最終決定する」としています。

しかし、子どもたちの「学ぶ権利」を保障するために設置されている公立高校の「定員」にゆとりがあるのは当然です。大阪府も「就学セーフティネット」として、毎年の募集定員が「進学予定者数」を上回るよう調整しています。「定員に満たない」学校が出るのは制度上の必然で、それを理由に学校をつぶすのは道理がありません。

この背景には、「3年連続定員に満たなければ再編整備」と規定する府立学校条例があります。条例制定後、今回を含めて16の府立高校が募集停止=廃校に。条例以前に廃校になった18校を加えれば府立高校はすでに30校以上減っています。他府県にない理不尽な条例は見直しが必要です。

## 府立高校はすでに30校以上が廃校に

【条例制定後の廃校】(地図参照)

- すでに廃校になった学校
- 廃校方針が決定された学校
- 今回、募集停止案が発表された学校

【条例制定前の廃校(全日制)】

門真南・玉川・守口・八尾南・高槻南・上神谷・白菊・枚方西・加納・南寝屋川・横山・城山・少路・鳥飼・四條畷北・清友・西浦・砂川



近くに通える高校がなくなる!



公立高校の「定員」はゆとりがあつて当然です

## 大阪の高校を守る会

〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町7-11-707 ☎ 06-6768-2106 2022年9月発行

署名にご協力  
ください

署名用紙は、  
<http://www.fukokyo.org/>  
からダウンロードできます。



# 競争と詰め込みではなく一人ひとりに行き届いた教育を！

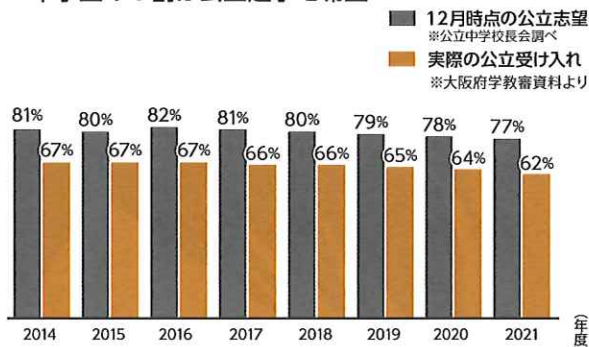
## 競争をあおる施策は見直しが必要！

大阪では「私学無償」などと言われますが、授業料の減免には所得制限があり、平均20万円の入学金や指定物品購入など公立に比べ大きな負担があります。また、学費はいったん全額を納入してから還付される学校も多く当座の負担も大変です。だから中学3年の12月時点の進路調査では生徒の約8割が公立高校を志望しています。

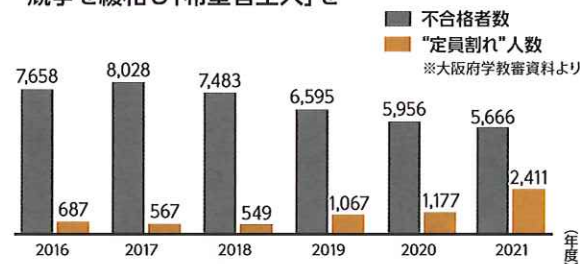
しかし、実際には公立高校への進学は年々減少し約6割に。背景には、通学区の撤廃や進学指導特色校の設置など競争をあおる施策で受験競争が府内全域に拡大・激化し「人気校」に受験生が集中していることがあります。2021年度の府立高校の志願倍率は平均1.1倍。60校で2,411人の「定員割れ」が生じる一方、50校あまりを中心に5,666人も受験生が不合格になっています。

大量の不合格者が出る過酷な競争を子どもたちに強いながら学校をつぶすのではなく、通学区を復活させるなど競争の緩和で、高校「希望者全入」こそめざすべきです。

■中学生の8割は公立進学を希望



■「定員割れ」の一方で大量の不合格者 競争を緩和し「希望者全入」を



## 少子化は20人学級実現のチャンス！

OECD諸国では1学級の人数は約20人が標準です。ところが日本は詰め込みの「40人学級」。とりわけ大阪には他府県のような独自措置もありません。少子化で子どもが減っている今こそ、少人数学級に踏み出すべきです。学校を小規模にすれば、一人ひとりに目が届くていねいな教育も可能です。教育行政がしっかりお金をかけて条件整備することが求められています。

■大阪の通学区の推移

1973年～	2007年～	2014年～
9学区制	4学区制	学区撤廃

■1クラスの人数

OECD平均	23人
日本	32人

※生徒数/クラス数の比較(中学校)

日本は下から2番目



## 子どもたちの学ぶ権利をまもれ！ 「地域の学校」の存続を！

市内唯一の公立高校だった柏原東高校が募集停止された柏原市では、中学生の高校進学率(通信制除く)が明らかに低下しています(グラフ参照)。

来年度からの募集停止が決定された泉鳥取高校は、文字通り阪南市唯一の高校。決定に際して、市長をはじめ市議会、地元自治会からも「なくてはならない学校」と強く反対が表明されました。

「地域の学校」を守り、子どもたちの「学ぶ権利」を保障するとともに、地域社会の活性化をはかるべきです。



高校進学率(課制)の推移

※学校基本調査をもとに作成

